

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202825		
法人名	医療法人社団真友会 藤井医院		
事業所名	医療法人社団真友会 藤井医院 グループホームみどり		
所在地	長崎県佐世保市中通町17-22		
自己評価作成日	平成22年7月28日	評価結果市町村受理日	平成22年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成22年9月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

居間から市街地、海が一望でき、恵まれた環境の中に、みどりはあります。医療法人であり、医療との連携が図れており、入居者の健康管理のためのバックアップ体制に優れています。その人らしい生活が送れるように、職員一丸となってケアに当たっております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成21年、施設長、管理者共に新体制となって以降、職員の離職もほとんど無く、ご利用者の方との馴染みの関係が保たれている。施設長と管理者は、“今、できそうなことを”見つめる視点を持つことを職員に伝え続けてきており、アイスや回転寿司を食べに出かけたり、近くのスーパーに買い物に行く等の外出が行われ、クリスマスのイルミネーション見学や虫見学等、夜の外出も積極的に楽しまれている。ご家族にも声かけし、日帰りで温泉施設に出かける等、外出の機会も多くなっている。職員は、担当のご利用者を受け持つことで、更に積極的に意見を伝えるようになっており、計画には、趣味の活動や読書といったご利用者の楽しみや、ドライブ、図書館への外出といったご家族の要望も盛り込まれている。ご利用者が意欲を持って取り組めることは何かを見極めながら、ご利用者の状況に応じた計画の見直しも行われている。日々、ご利用者は、見晴らしの良いホーム周辺での散歩を楽しみ、ホームで使うタオルをご利用者が手縫いし、景色を眺めながらの団楽の時間を過ごされている。これからも、地域を含めて“まずはできることから始めていきたい”と意欲を持って歩まれているホームであった。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時、理念を復唱し意識を高め、日々のケアの向上に努めている。	毎朝唱和している「緑豊かな環境・恵まれた景観・心地よい居住空間・1人1人の声に耳を傾け、その人らしさを大切にしたい生活が送れるよう努めます」という理念の通り、“その人らしさ”ということへの意識は着実に高まっており、チームワークも更に良くなっている。	開設以来、職員も力を合わせて務めてきたが、引き続き、それぞれの職員が“理念”に対する意識を高めていきたいと考えられている。日々気付いたことは、施設長や管理者が職員に伝える取り組みを続け、理念の実践に繋げていきたいと考えている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りのお知らせを町内の掲示板に掲示したり、回覧板などで参加を呼びかけている。	昨年以降、町内会の会合にも参加し、22年7月からは、地域の回覧板も回ってくるようになった。ご利用者は、地域の餅つき大会や公民館まつり等に参加している。地域の保育園の子ども達の訪問もあり、お遊戯を披露して下っており、ご利用者にとっての楽しいひと時となっている。	今後も、公民館にご利用者の作品を出品予定であり、中学校区の球技大会への参加含めて、更に、地域の方との関係作りに取り組んでいきたいと考えておられる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族会などの場を活用して現状を報告し、理解や支援の方法を実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議や家族会などで、認知症についての理解、支援の方法などを課題として取り組んでいる。	ご利用者、ご家族、自治会代表の方、他のグループホームの職員に参加頂き、22年5月からは2か月に1回開催するようになった。ホームでの日々の暮らしぶりや行事報告、認知症についての事例発表も行っており、参加者の方々からも、地域のお年寄りの現状や介護に対する質問もあり、有意義な場となってきている。	有意義な意見交換が増えていることから、今後も、市の担当者にも出席頂けるよう呼びかけを続けていく予定である。他の出席者との連絡調整を図りながら、年6回の開催を続けていきたいと考えている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告を行っている。	計画作成担当者等が、申請などの手続きや運営推進会議の議事録などを市の窓口を持参している。“いい汗ボランティア夏体験2010”の受け入れ施設として登録しており、22年2月には、小学生の体験学習の受け入れも行った。	引き続き、市の担当者へ運営推進会議への参加を呼びかける等、市との連携の強化を図っていきたいと考えておられる。今後の展開に期待していきたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、いつでも閲覧できるようにしており、身体拘束をしないケアに努めている。	職員は、身体拘束を行わない支援の大切さを理解している。ご利用者が一人で外出しようとする時にはさりげなく同行する等、拘束を行わないケアに取り組んでいる。精神的に不安定で、時々感情が高ぶる利用者に接する時は、表情を観察し、機嫌の良い時などに対応するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルや資料はあるが、学ぶ機会が少ない為、今後定期的に勉強会を行っていきたい。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料はあるが、現在活用しているご利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や面会時などに、十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、現状を詳しく説明し、コミュニケーションを大切にしている。事務所前の通路に、意見箱を設置している。	施設長自ら、ご家族とお話をする機会を増やし、直接、意見や要望をお聞きするようにしている。「機会があれば、なるべく外出をさせて欲しい」等の意見があり、外食や日帰り温泉に出かけたり、又、あじさい、桜見物などのドライブを行った。ご利用者にも個別に希望を伺うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会を3ヶ月ごとに、又、フロア一会、全体会などを毎月開催し、自由に意見を出せる場を設けていて、運営に反映させている。	平成21年6月より職員担当制となった。職員は、担当のご利用者を受け持つことで、個々のケアの方法など、積極的に意見を伝えている。管理者は「アイデアや意見がある時はいつでも話して下さい」と職員に伝えており、着実に意見も増えてきている。職員の意見は全員で検討されており、日々の業務に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士、ケアマネージャーなどの資格を自主的に取得するよう、手当などを整備している。希望により、有給休暇を取る事が出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回勉強会を行い、事例発表など取り組んでいる。外部研修にも参加し、全体会にて報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、他のホームとの交流を図っている。同一法人のグループホームと情報交換している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各々、ご利用者に対して職員の担当者を決めており、本人とのコミュニケーションに努め、安心して生活出来るよう、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などに近況を説明し、かつご家族の要望等をよく聞いて関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の意向をよく聞き、必要とされているサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は気軽に声かけし、お手伝いをして頂き、楽しく生活出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り外出、行事などの参加の声かけを行い、関係作りを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に訪問して頂けるような雰囲気作りに努めている。馴染みの方が隣のフロアに入所されている事がわかり、気軽に訪問出来るよう支援している。	ご利用者とゆっくりと話ができる場を作り、ご利用者の生活歴などを伺い、情報は職員全員で把握できるよう、ノートに記入している。クリスマスであるご利用者のもとに、定期的に牧師が尋ねて下さっている。ご家族にも協力頂きながら、馴染みの美容院や呉服店を利用したり、馴染みの場所をドライブするなどの支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の会話や行動を、さりげなく見守り、必要に応じて間に入り、馴染みの関係作りに努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談、支援が出来るように話をし、関係作りを大切にしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り会話を行い、表情や行動などを見落とさないように努めている。	ご利用者の生活歴や趣味などを把握し、一人ひとりの行動、言葉、表情から意向の把握に努めている。ご家族の面会時や担当者会議において、「何か困っていることはないか」等、ご要望をお尋ねしている。不穏な行動が見られる場合は、その原因をミーティングで話し合い、ご利用者の思いを知る努力を続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人はもちろん、面会時などご家族ともよくコミュニケーションをとり、経過等の把握を行っていく。入所前に利用されていた介護事業所から情報を提供して頂き、ケアに取り入れる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の生活歴、趣味などを把握し、新たな能力を見出せないか対応していく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の業務の中でも、問題があれば、その日の職員同士で話し合っている。	担当職員が原案を作成し、会議を通して職員全員で原案の検討が行われている。計画には、趣味の活動や読書といったご利用者の楽しみや、ドライブ、図書館への外出といったご家族の要望が盛り込まれている。ご利用者が意欲を持って取り組めることは何かを見極めながら、ご利用者の状況に応じた計画の見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートの活用と、介護計画が実践出来ているかをチェックできる個別記録で、情報を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	気分転換を図る為、外出、買物の支援を行い、サービスの多機能化に努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりは弱い。今後、地域との交流に努め、豊かな暮らしが出来るよう支援したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週2回の往診や、毎朝ファックスにて状態報告を行っている。特変時も報告を行い、指示を受けている。本人、家族の希望する病院を受診出来るようにしており、必要に応じて情報提供を行っている。	職員が通院介助を行った時は、ご家族面会時に報告を行い、緊急時は電話で報告が行われている。日中は、建物内に看護師が常勤しており、ご利用者の体調の変化に応じて対応している。夜間対応が必要な時は、母体の医療機関から看護師が訪問している。また、週2回院長の往診を受けており、細やかな対応が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が、併設のデイサービス、有料老人ホームに常勤しており、日頃から状態を報告し、変化があった場合は指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の関係者、担当者と密に連絡をとり合い、早期に退院出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営母体が医院なので、医師、看護師とは十分に協力、連携できている。重度化した場合や終末期のあり方についても、ご家族とよく話し合い、支援を行っている。	入所時に、看取りに関する指針の説明をご家族に行い、指針を記入した重要事項説明書を渡している。状態が重度化した場合には院長がご家族と話し合い、ご本人、ご家族の意向を取り入れた看取り介護が行われている。院長の指示で、ホーム内の看護師が点滴を行う等、必要な医療処置が行われている。また、ご希望があれば他の病院を紹介する等の支援も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルは準備されているが、定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火マニュアルを準備しており、年に3~4回避難訓練を行っている。	ご利用者に参加頂き、誘導時間を測定するなどの訓練が行われている。平成22年7月の運営推進会議において、春日消防署長らが参加し、近年のグループホームの火災のことや、災害危険区域である中通町の災害対策及びアドバイスを頂いた。地域の方との協力体制を構築したいことを、運営推進会議で伝えられた。	災害に備えた備品について検討中であり、夜間想定訓練も行う予定となっている。地域の方、消防団の方と災害に備えた話し合いを行い、連携を強めていきたいと考えている。ご利用者が安心して暮らせるよう、災害に備えた体制が整うことに期待していきたい。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには、職員一人ひとり常に気を配り、対応している。居室への入室時は必ずノックしている。	職員は、“相手の立場になってお手伝いをさせて頂く”、という気持ちを常に心がけている。ご利用者に対する言葉かけに注意し、一人ひとりを尊重した名前の呼び方や、声のトーンに配慮し大きな声で話さない取り組みが行われている。女性のご利用者のパッド交換は、女性職員が声かけするなどの羞恥心への配慮も心がけている。	職員が忙しんでいる時に、必要以上に大きな声でご利用者へ話しかけていることがある。引き続き、お互いに意識をしながら取り組んでいきたいと考えておられる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い、意向を基に、自己決定ができるような支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人のペースで一日を過ごして頂けるよう、心掛けている。好きな時間に入浴し、食べたい時に食べる事が出来る。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	さり気なくアドバイスを行うなどして、その人らしい身だしなみが出来るよう、対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえなどを手伝っていただき、無理の無い程度で職員と一緒にやっている。	栄養バランスについて、法人の栄養士に助言を頂きながら、メニューが重ならないような配慮がされている。ご利用者の嫌いな食材があれば、その都度他の食材に変更している。バイキングや回転寿司に出かけたり、「誕生日には何を食べたいですか？」と、ご本人の意見を取り入れ、より楽しい誕生会になるよう努めている。	現在介助が必要なご利用者もおられ、職員全員がご利用者と一緒に食事をすることができていない状況である。職員より、「ご利用者と一緒に昼食を摂りたい」という要望があり、今後も取り組みを続けていきたいと考えている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の一覧表を作成している。摂取量が少ない時は時間を置いたり、栄養補助食品や嗜好品などで対応している。水分摂取量が少ないご利用者は、一日の飲水量をチェックし、好みの飲み物を数種類用意して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来ないご利用者のケアは勿論、出来るご利用者にも声かけを行い、歯磨きを行っている。定期的に歯科衛生士に連絡を取り、口腔内のチェックを行っている。義歯は、義歯洗浄剤を用いて定期的に洗浄し、清潔保持に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基に随時トイレ誘導を行い、失禁予防、自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、一人ひとりに合わせた排泄支援が行われている。日々のケアを行う中で、オムツやパッド使用について検討が行われ、トイレ介助が必要なご利用者についてはタオルをあてるなど、羞恥心に配慮したケアが行われている。パッドが必要な方にも、安心して頂けるような声かけを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声かけを行い、数種類の飲み物を準備している。腹圧マッサージや腹部を温めるなどして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、月～土の午前中に設定しているが、自立のご利用者については、時間帯は決めず、希望される時間に入浴して頂いている。	日に4～5人の入浴支援を行っており、ご利用者毎の入浴時間に応じて、ゆとりを持って対応している。ご利用者に不安なく入浴して頂けるよう、半身麻痺の方や車椅子からシャワーチェアへの移乗時は2人介助で行う等の配慮をしている。入浴中、職員と会話を交わしたり、昨年11月には、日帰りで温泉施設を楽しんで頂いた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠が不十分なご利用者には、居室やソファでしばらく横になって頂くよう対応している。朝は体調を見ながら、声かけで目覚められない時は自然覚醒で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成し、用法、用量、副作用の確認を行っている。且つ服薬時は職員2人で確認している。バイタルサインを基に、医師、看護師の指示で血圧降下剤や精神安定剤等を調整することもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いなど、無理の無い程度に一緒に行っている。楽しみごとの支援として、本や新聞、塗り絵、歌の本などを準備している。抹茶を点てて下さるご利用者がいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、花見、温泉、外食などを行っている。ご家族の協力を頂きながら、外出の機会を増やしていきたい。なし狩り、ぶどう狩りを今後予定している。	暑い時期の外出は控えられてきたが、アイスや回転寿司を食べに出かけたり、近くのスーパーに買い物に行く等の外出が行われた。季節に応じた外出の他に、クリスマスのイルミネーション見物や蛍見物等、夜の外出も積極的に楽しまれている。また、ご家族にもお声かけし、日帰りで温泉施設に出かける等、外出の機会は多くなっている。買い物や外食など、個別の希望にも対応している。	



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のご利用者はいない。職員介助にて買物、外食など行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話出来るよう支援している。本人自ら知人に電話して、買物や美容院への付き添いを頼んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り付けを行っている。光の量、テレビの音量などにも配慮して、居心地良く過ごせるよう工夫している。	快適に生活して頂けるよう温湿度等を調整し、夏場、西日が当たるトイレが高温にならないように、すだれが活用されている。テレビやCDの音量にも気を配り、雑音とならないよう心がけている。掲示物の作成をご利用者と一緒に楽しんだり、一人ひとりの作品ファイルや写真ファイルがフロアーに準備されている。居室及びトイレ内には、新聞紙を利用したゴミ袋を設置する等、臭気への配慮も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにソファー2台、畳の椅子1台を設置し、いつでも気軽に使えるよう対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自立のご利用者は、好みの物、馴染みの物を配置したり、観葉植物を育てたりしている。又、入所時に馴染みの物を持参して頂くよう、お願いしている。	入居の時には、馴染みの物を持って頂くようにお伝えしており、自宅で使っていたタンスや鏡台、ソファーや寝具、ご仏壇等を持って入居されたご利用者もおられる。持ち込みの少ない方には、寂しい雰囲気にならないように、写真や動物のポスター、カレンダー、作品などを飾り、居心地良く過ごして頂けるような配慮が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレがわかり易いように大きな貼り紙を掲示している。居室がわからないご利用者には居室前に名前を掲示している。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	声の大きさや言葉遣い、又、プライバシーに配慮した基本的な援助が十分に出来ていない。	職員がお互いの支援方法を注意出来る、又、自分の支援方法が気になった時は「今のはどうだった？」と職員に聞く事ができる、風通しの良い環境をつくる。ご利用者の尊厳を大切にしたい支援を行い、ケアの質を向上する。	・自己評価表を作成し、日々記録に残して、ミーティングで各々発表することで、意識の向上を目指す。 ・ケアの質を高める為、毎月のミーティングで勉強会を行う。又、研修に参加する。	6 ヶ月
2	2	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、職員と地域との新たな交流は出来たが、ご利用者と地域との新たな交流が乏しい。	ご利用者と地域との新たな交流を実現する。	・運営推進会議や回覧板を基に地域行事を把握し、参加する。 ・夏祭り以外にも、地域の方が訪問出来るような施設行事(お茶会等)を開催する。	12 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月